

3. 各研究科等の各段階における到達目標

(1) 文学研究科国文学専攻（中専免（国語）・高専免（国語））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、国語の教科に関する科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、国文学の各時代や国語学の各領域についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、国語学・国文学の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、国語の教科に関する科目を選択受講して、国語科の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、国語科の教科専門性を可能な限り引き上げる一方で、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、国語の教科に関する科目を選択履修して、国語科の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、国語科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、国語の教科に関する科目を選択履修して、国語科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの国語科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に議論に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、国語科の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(2) 文学研究科英文学専攻 (中専免 (英語)・高専免 (英語))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得における自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、外国語「英語」の教科に関する科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、英文学の各分野や英語学の各領域についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、外国語「英語」の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、外国語「英語」の教科に関する科目を選択受講して、外国語「英語」の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、外国語「英語」の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、外国語「英語」の教科に関する科目を選択履修して、外国語「英語」の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>きわめて近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、外国語「英語」の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、外国語「英語」の教科に関する科目を選択履修して、外国語「英語」の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの外国語「英語」の教科専門性をさらに高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に議論に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、外国語「英語」の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(3) 文学研究科史学専攻（中専免（社会）・高専免（地理歴史））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、地理歴史及び社会の教科に関する科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、自らの不足する点を十分に補えるよう考慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、地理歴史及び社会の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、地理歴史及び社会の教科に関する科目を選択受講して、地理歴史及び社会科の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、地理歴史及び社会の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、地理歴史及び社会の教科に関する科目を選択履修して、地理歴史及び社会科の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、地理歴史及び社会科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、地理歴史及び社会の教科に関する科目を選択履修して、地理歴史及び社会科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの地理歴史及び社会科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に議論に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、地理歴史及び社会科の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(4) 発達教育学研究科教育学専攻

◇幼専免

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>これまでの自らの教育実習経験と幼稚園教諭一種免許状取得のための教職課程履修状況を振り返り、幼稚園教諭専修免許状を取得するに足る2年間の履修計画を立てる。</p> <p>近い将来に自らが教育現場に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、教科教職専門性を可能な限り引き上げるとともに、自らが教育現場に立つ姿を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することにより言語運用能力を向上させて、実践的な力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教職専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教育現場に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げる。また、教育現場を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、実践力を磨き、教員養成における「理論」と「実践」の融合をめざす。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教職専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教育現場に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げる。演習及び課題研究の履修に際しては、教育現場を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、実践力をさらに磨いていく。さらに、前年度に引き続き実践力を高め、それらの理論化に努める。</p>
	後期	<p>これまで1年半で学修してきたことを振り返り、専修免許状取得に不足するものはないかを再検討し、教職専門性をさらに高めていくように努める。また、幼児教育の現場に出た1年目から幼稚園教諭としての諸能力を発揮し、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として何が必要かを考慮しながら、残り半期となった学修計画について修正すべき点はないかを点検し、必要に応じて計画を改善する。また同時に、修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの専門的知識や理論をさらに高めていくことにより専修免許状取得のための教職課程を修了する。</p>

(4) 発達教育学研究科教育学専攻

◇小専免

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げるとともに、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教職専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げる。また、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨き、教員養成における「理論」と「実践」の融合をめざす。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、教職専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時にたてた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>きわめて近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げる。演習及び課題研究の履修に際しては、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。さらに、前年度に引き続き実践力を高め、それらの理論化に努める。</p>
	後期	<p>これまで1年半で学修してきたことを振り返り、専修免許状取得に不足するものはないかを再検討し、教職専門性をさらに高めていくように努める。また、教育の現場に出た1年目から小学校教諭としての諸能力を発揮し、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として何が必要かを考慮しながら、残り半期となった学修計画について修正すべき点はないかを点検し、必要に応じて計画を改善する。また同時に、修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの専門的知識や理論をさらに高めていくことにより専修免許状取得のための教職課程を修了する。</p>

(5) 発達教育学研究科表現文化専攻 音楽コース

◇中専免（音楽）・高専免（音楽）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、中でも音楽の教科に関する科目については、特論や演習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、作曲、器楽、声楽、音楽史、音楽理論などの各分野についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、中学校・高等学校の音楽科にかかわる教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に音楽の教科に関する科目を選択受講して、作曲、器楽、声楽、音楽史、音楽理論など各分野にわたる教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、中学校・高等学校の音楽科にかかわる教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に音楽の教科に関する科目を選択履修して、作曲、器楽、声楽、音楽史、音楽理論など各分野にわたる教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、特論の受講の際に、中学校・高等学校の音楽科にかかわる教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、特に音楽の教科に関する科目を中心に履修して、その教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの音楽表現を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(5) 発達教育学研究科表現文化専攻 初等教育コース

◇幼専免

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。領域や教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、中でも領域に関する科目について今一度自らを省みて、もし学力的な不安がある場合には、修了までの間に、十二分な学力を修得できるように配慮する。教職に関する科目も、計画的に履修する。</p> <p>近い将来に自らが幼児の前に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の表現の専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが幼児の前に立った保育を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な保育指導力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の表現の専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが幼児の前に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、領域や教科専門性に加えて、保育を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、保育指導力を磨いていく。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、領域と教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが幼児の前に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げると同時に、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、保育指導力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の表現の専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業の際、特に指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、領域や教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の保育指導を受けることになる園児に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(5) 発達教育学研究科表現文化専攻 初等教育コース

◇小専免

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に教科に関する科目について、今一度自らを省みて、もし学力的な不安がある場合には、修了までの間に、十二分な学力を修得できるように配慮する。教職に関する科目も、計画的に履修する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群、特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、統合を図る科目群や固有領域の進化をはかる科目群特に教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、一種免許取得時に不足していた部分を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、音楽表現や言語表現、造形表現、運動・舞踊の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業の際、特に指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる児童に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(6) 発達教育学研究科児童学専攻（幼専免）

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	これまでの自らの教育実習経験と幼稚園教諭一種免許状取得のための教職課程履修状況を振り返り、幼稚園教諭専修免許状を取得するに足る2年間の履修計画を立てる。特に、児童学専攻において開講されている「教科に関する科目」と「教職に関する科目」については、各自の特性に応じて3分野（発達・健康・文化）の中から履修科目を選択し、幼稚園教諭としての幅広い知識と技術が不足することのないように十分考慮する。
	後期	1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにする。また前期に引き続き、近い将来自らが保育現場に立つ姿を思い描きながら、専修免許状取得に必要なかつ適切な専門性を獲得するための学修目標が十分達成できるかどうかを検討し、残る期間での学修計画を再確認する。また同時に、修士論文作成のための周知な準備を図る。
2年次	前期	1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。また自らの有する知識・技術において不足する分野を十分に補い、さらに専門性を高めることができるよう「教科に関する科目」と「教職に関する科目」を十分吟味して選択履修する。また同時に、修士論文作成の作業を通じて、幼稚園教諭としての専門性を高めていくように努める。
	後期	これまで1年半で学修してきたことを振り返り、専修免許状取得に不足するものはないかを再検討し、児童学専攻としての専門性をさらに高めていくように努める。また、幼児教育の現場に出た1年目から幼稚園教諭としての諸能力を発揮し、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として何が必要かを考慮しながら、残り半期となった学修計画について修正すべき点はないかを点検し、必要に応じて計画を改善する。また同時に、修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの専門的知識と技術をさらに高めていくことにより専修免許状取得のための教職課程を修了する。

(7) 家政学研究科食物栄養学専攻 (中専免 (家庭)・高専免 (家庭))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1 年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、教科に関する科目については、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、実験・実習、さらに特別研究の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮し、食物栄養学各領域についても極端な偏りの無いように配慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、中でも家庭の教科の関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際には、食物栄養学の教科専門性を可能な限り引き上げる。演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、実験・実習、特別研究を選択受講して、家庭科の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、中でも家庭の教科の関する科目として指定された特論や実習、特別研究の受講の際に、家庭科の教科専門性を可能な限り引き上げる一方で、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2 年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、さらに特別研究を選択履修して、家庭科の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、中でも家庭の教科の関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に、家庭科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群の各特論や各演習、特別研究を選択履修して、家庭科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を發揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの家庭科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(8) 家政学研究科生活造形学専攻（中専免（家庭）・高専免（家庭））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験、中でも家庭の教科に関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に教科専門性を可能な限り高めるとともに、演習の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験を選択受講して、家庭科の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験、中でも家庭の教科に関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に、家庭科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、演習の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験を選択履修して、家庭科の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験、中でも家庭の教科に関する科目として指定された特論や特別研究の受講の際に、家庭科の教科専門性を可能な限り引き上げる一方で、演習の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、造形意匠学、アパレル造形学、空間造形学の特論や演習、特別研究、特別実験を選択履修して、家庭科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの家庭科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、家庭科の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(9) 家政学研究科生活福祉学専攻（高専免（福祉））

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などの学びが十分であったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、基礎科目群、分野科目群については、特論や実習の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、自らの不足する点を十分に補えるよう考慮する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群、中でも福祉の教科に関する科目として指定された特論の受講の際に教科専門性を可能な限り高めるとともに、実習および特別研究の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群から選択受講して、福祉科の教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群、中でも福祉の教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、実習および特別研究の履修に際しては、教科専門性に加えて、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力を磨いていく。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群から選択履修して、福祉科の教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、基礎科目群、分野科目群、中でも福祉の教科に関する科目として指定された特論の受講の際に、福祉科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、実習および特別研究の履修に際しては、教科専門性に加え、授業を想定したプレゼンテーション能力向上の機会とも捉え、また議論にも積極的に参加して、実践的な言語運用能力を高め、授業力をさらに磨いていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、基礎科目群、分野科目群から選択履修して、福祉科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正するべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの福祉科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に受けるだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、福祉科の教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>

(10) 現代社会学研究科公共圏創成専攻 (中専免 (社会)・高専免 (公民))

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	<p>一種免許取得の際の自己の教職課程履修について振り返りをする。教科に関する科目、教職に関する科目などが、十分な学びであったか。不十分な点があるなら、それを今後2年間で補うために、どのような学修が必要か、計画を立てる。特に、固有領域の深化をはかる科目群、実践能力の涵養を図る科目群、領域間の総合を図る科目群については、研究や特別研究の履修選択に際し、修士論文を視野に入れつつも、教師として不足する点を十分に補えるよう考慮する。</p> <p>固有領域の深化をはかる科目群、実践能力の涵養を図る科目群、領域間の総合を図る科目群の、研究や特別研究、中でも公民及び社会の教科に関する科目として指定された研究や特別研究の履修に際しては、自らが教壇に立つ授業を想定しつつ、社会科や公民科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、プレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加することで言語運用能力を向上させて、実践的な授業力を高めていく。</p>
	後期	<p>前期に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、固有領域の深化をはかる科目群、実践能力の涵養を図る科目群、領域間の総合を図る科目群から選択受講して、教科専門性を高めていく。1年次前期の学修を通じて、前期に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>近い将来に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、固有領域の深化をはかる科目群、実践能力の涵養を図る科目群、領域間の総合を図る科目群の、研究や特別研究、中でも公民及び社会の教科に関する科目として指定された研究や特別研究の履修に際しては、社会科や公民科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、プレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力をさらに高めていく。</p>
2年次	前期	<p>前年度に引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、固有領域の深化をはかる科目群、実践能力の涵養を図る科目群、領域間の総合を図る科目群から選択履修して、教科専門性を高めていく。1年次の学修の振り返りを通じて、入学時に立てた計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>1年後に自らが教壇に立っている姿を思い描きながら、固有領域の深化をはかる科目群、実践能力の涵養を図る科目群、領域間の総合を図る科目群の、研究や特別研究、中でも公民及び社会の教科に関する科目として指定された研究や特別研究の履修に際しては、社会科や公民科の教科専門性を可能な限り引き上げるとともに、プレゼンテーション能力向上の機会とし、また議論にも積極的に参加して言語運用能力を向上させて、実践的な授業力をさらに高めていく。</p>
	後期	<p>引き続き、自らの不足する点を十分に補えるよう、固有領域の深化をはかる科目群、実践能力の涵養を図る科目群、領域間の総合を図る科目群、中でも公民及び社会の教科に関する科目として指定された研究や特別研究から選択履修して、公民科や社会科の教科専門性を高めていく。教員になった1年目から教師としての諸能力を発揮できるとともに、その能力を生涯にわたり伸ばし続けることのできる教師として巣立つべく、残り半期となった学修計画について修正すべき点を明らかにし、必要に応じて計画を改善する。</p> <p>修士論文執筆の仕上げ作業を通して、自らの公民科や社会科の教科専門性を更に高めていく。</p> <p>特に、指導教員から論文指導を受ける際には、謙虚に傾聴するだけでなく自らが深い問題意識をもって能動的に議論に臨み、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力など、教科専門性以外の部分での実践的な教師力の仕上げを図る。</p> <p>自分の授業を受けることになる生徒に対して恥じることのない力を身につけて課程を修了する。</p>